

会場での質疑応答の記録

桜が丘中学校区

Q 1 :	大規模校はどのくらいまではよいのか。
A 1 :	<p>国が示している適正規模は小学校については、概ね1学年2～3学級ということになっているので、それぐらいの範囲内に収まるような学校にしていきたいと考えている。</p> <p>先ほど子どもの幸せということで御意見をいただいたが、学校も子どもたちの幸せを大事にしている。どの学校も子どもたちにアンケートをとっている。学校生活が楽しいかということを知っていて、その結果は保護者の皆さんにもお知らせをしているはずである。</p>
Q 2 :	小中一貫校のメリットは。なぜ再編が必要なのか。
A 2 :	<p>一つの施設の中に小学生と中学生がいるということで、子どもたちの交流がしやすくなる。例えば、英語の授業で小学校でも中学校でも買い物の場面の英会話の勉強をする。程度は全然違うが、小学生と中学生と一緒に学んだことを使って表現しようとする。そういう交流ができる。子どもだけではなく、教員も中学校の先生が小学生を教えたり、小学校の先生が中学生を教えたりという、相互の交流が行いやすい。縦割り活動も中学生も含めて行うことも考えられる。小学校高学年での教科担任制も行うことができる。</p>
Q 3 :	大きな学校と小さな学校が一緒になることへの配慮は考えているか。
A 3 :	<p>原田小と原谷小の場合にはそれぞれの学校に移動して授業を行ったりする交流活動を行ったことがある。行うことで友達が増えた、中学に入ってまた会えたねということにもなるので、再編の場合もそのような交流を踏まえた上で移行していくことになると考えている。再編については、来年とか再来年という話ではなく、校舎の整備も含めて考えている。9中学校区同時に行うことはできないので順番に進めていきたいと考えている。</p>
Q 4 :	地域との兼ね合いはこれからどうなるのか。
A 4 :	<p>現在、市では中学校区学園化構想で中学校区単位で活動をしていただいている。再編が進んだ後も地域で同じような取組を続けていただきたいと思っている。</p> <p>周辺部の学校では農業をされている方が多いことから、農業関係の方に御協力をいただくことが多い。街中の学校ではまた違う形で取組をしていただいている。例えば、東中学区ではキャリア教育の一環として、地域の様々な職業の方に学校にお越しいただいてその職業についてお話をしてもらっている。その地域なりの形で学校を支えていただければと思っている。</p>
Q 5 :	通学手段はどうなるのか。
A 5 :	<p>通学については、現在、小学生で4 km以上、中学生は6 km以上の距離がある場合には、路線バスの定期券の支給、またはスクールバスを運行している。小学校の低学年と高学年、中学生とでは下校時間が変わるため、子どもたちの下校時間にあわせてバスが何往復かしている。再編によって該当するような距離の子どもがいれば同じように対応していく。</p>

Q 6 :	学区と望ましい教育が両立することが大事ではないか。
A 6 :	おっしゃる通りであると思っている。そのために地域の皆さんのお考えを伺った上で進めていきたいと考えている。他市の事例などを見ると、市の方でこんな計画でどうですかと決めてから地域に入ることが多いが、我々はまず住民の皆さんがどう考えているのか伺ってその上で枠組みを決めていきたいと考えて、今回の意見交換会を開催している。 桜が丘中学校区は一昨年、コロナ禍での学校の消毒作業に御協力いただくなど学校の運営に御協力いただいたことから文部科学大臣表彰を受けた。天浜線の桜木駅の清掃作業や草刈りなど、桜が丘中学校区は地域と学校が一体化した活動をされている。そうしたことも含めて、再編の議論についても気運の醸成を図っていただければありがたい。
Q 7 :	障がい児の受入れについてはどうなるのか。
A 7 :	現時点でも、保護者の方が希望すれば特別支援学校に相当するような子どもさんであっても、市立の学校で地域の子もたちと一緒に生活をしている。今後も同様に、障がいのある子どもも一緒に学んでいく。 障がいのある子はずっと支援学級で生活しているわけではなく、普通学級との交流も積極的に、インクルーシブ教育ということも踏まえながら教育を行っている。
Q 8 :	広域避難所はどうなるのか。
A 8 :	桜木小、和田岡小、桜が丘中学校の3校とも広域避難所として活用している。再編後にできる学校については広域避難所にしていきたいと考えている。廃校となる学校についても施設が残るようであれば、できるだけ広域避難所として活用していきたいと考えている。 公会堂の活用、親戚・知人宅への避難など分散避難を行っていただいて地区の避難所や広域避難所に行く前にそういう避難のしかたもあるということも周知をしていきたい。再編してどこに学校を作るのかが決まった段階で、地域の皆さんとどこを避難所にするのか協議をしていきたいと考えている。
Q 9 :	跡地利用はどうなるのか。
A 9 :	廃校になった後も、地域活動やスポーツ活動等に活用することが考えられる。活用方法については、学校再編と併せて地域の皆様と検討をしていきたい。
Q 10 :	学童保育はどのように変わっていくのか。
A 10 :	学童保育については、再編後の学校の敷地内、あるいは協力していただける方が設営していただいた施設で運営することが望ましいと考えている。
Q 11 :	行事や部活動は今後どう変わっていくのか。
A 11 :	中学校の部活動は今まで学校が担ってきたが、教員の働き方改革や、半数以上が指導経験のない種目の指導を行っている現状等から全国的に地域クラブ化の動きが進んでいる。掛川市の動きは市のホームページに掲載しているので、一度ご覧いただきたい。 また、中学校の制服についても見直しの検討を進めている。そちらについてもホームページで情報発信をしているので、御意見をいただければありがたい。

Q12:	学校を新しくするためのお金があるのか。
A12:	財政上の制約から、すべての学校を一度に新しくすることはできない。優先順位を決めて進めていかなくてはいけないと考えている。どれくらいの費用がかかるのか、概略ではあるが試算はしている。再編のパターンによっては50億円とか100億円とかの高額な事業費がかかるため、計画的に行っていきたい。
Q13:	和田岡小は50年前に桜木小と曾我小へ分断が検討されたことがあった。地区が分かれるというイメージがあるが、和田岡地区は桜が丘中学校区ということを担保してほしい。和田岡地区の住民はそのことを心配している。地区を分断しないと明言してほしい。
A13:	区を割るということに対する不安についてはしっかりと受け止めさせていただく。いろいろな方の意見を伺う中で、このような意見があったということもフィードバックをしながら、しっかりと考えていきたい。